

科目	単位 (時間数)	時期	講師名 (職名)	
助産学概論	1 (15)	1 学期	教育主事 (助産師) (15)	
目標				
助産の基本概念を理解し、助産師の責務と役割を認識できる。				
回	時間	項目	授業内容	授業方法
1	2	助産の概念	1) 助産とは 2) 出産・母子を取り巻く環境の変化 3) 医療の動向と助産の今後 4) 助産に関連する概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・女性の生涯を通じた健康支援	講義
		助産の歴史	1) 助産の変遷と助産師の役割 ・わが国の助産の歴史 ・諸外国の助産の歴史	講義
2	2	助産師の職制と業務	1) 助産師の定義 2) 助産師の業務・責務と展望 3) 関連法規・諸制度 (*1) 4) これからの産科医療と助産師の働き方 (*2)	講義
3	2	助産学を支える理論	1) 実践を支える理論とはなにか 2) 理論の種類 3) 助産学における理論 4) 関連する学問領域 ・産科学、社会学、文化人類学	講義
4	2	助産師と研究	1) 実践からエビデンスを構築する 2) エビデンスに基づく実践 ①産科診療ガイドライン ②助産業務ガイドライン ③エビデンスに基づくガイドライン (*3)	講義
5	2	助産師と倫理	1) 道徳・法・倫理 2) 医療における倫理原則 3) 助産師が直面する倫理的課題 4) 助産師の職業倫理 ・看護師の倫理綱領 (2003 日本看護協会) ・助産師の倫理綱領 (2008 ICM)	講義
6	2	母子保健の動向	1) 母子保健の歴史 2) 母子保健の動向と諸制度 3) 母子保健施策	講義
7	2	助産師教育の変遷	1) わが国における助産師教育 (*4) 2) 諸外国における助産師教育	講義
8	1	終講試験 (45分)		試験
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験、レポート課題など 100点 ※授業中に提示する 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。			

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座 1
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・助産業務ガイドライン *1 産科医療補償制度について 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/ 政策について→分野別の政策一覧→健康・医療→医療→医療安全対策 *2 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度について 一般財団法人 日本助産評価機構 http://www.josan-hyoka.org/ *3 公益社団法人 全国助産師教育協議会 お役立ち資料（通達、報告書、統計資料、ガイドラインなど） http://www.zenjomid.org/info/index.html *4 日本助産学会ホームページ http://minds4.jcqh.or.jp/minds/jam_guideline_2016/jam_guideline_2016.pdf
備考	<p>本講義は受胎調節実地指導員認定のための講習を含む。</p>